

山梨県 北杜市

山梨県 北杜市

子どもの声が響くまち - 北杜

【市の概要】

山梨県北杜市は、平成16年11月に、明野村、須玉町、高根町、長坂町、大泉村、白州町、武川村の7町村が合併して誕生し、平成18年3月に小淵沢町が加わりました。

山梨県の北西部に位置し、面積は県内で最も広い602.89km²で、東京都23区に匹敵する面積を占めており、八ヶ岳、南アルプス、奥秩父の山々など日本を代表する山岳景観に囲まれた「杜（もり）のまち」であり、ミネラルウォーターの生産量が日本一、日照時間が日本一という自然に恵まれた地域です。



本市の人口は、豊かな自然環境を活用した取り組みの効果もあって、移住する方は多いですが、それを上回る減少があるため合併当時は5万人を超えていましたが、現在は約4万9千人となっています。出生数も平成22年は260人となり、平成17年と比べると1割以上減少しています。

合計特殊出生率は、平成22年に1.27となっており、全国の平均を下回り厳しい状況にあります。また、高齢化率も年々上昇しており、平成23年4月には、30.1%となっています。

市内には保育所が私立2園、公立15園の計17園あります。このほか地域子育て支援拠点事業のひろば型を4か所、センター型を3か所設置しています。また、放課後の子どもの居場所として放課後児童クラブを13か所、放課後子ども教室を7か所、児童館を5か所設置しています。

平成22年度からはファミリー・サポート・センター事業を開始しました。依頼会員・協力会員あわせ200人を超える登録会員があり、子育てパパ・ママを応援しています。

子ども・子育て支援は、今、本市に住んでいる方の子育て環境を充実させるための取り組み（「子育て支援の充実」）と、人口が減少するなかで、多くの方々に本市の魅力や良さを知っていただき、若者や子育て世代に定住や移住していただくための取り組み（「子育て世代に魅力あるまちづくり」）が必要であると感じており、両面からさまざまな施策を展開しています。

武川コミュニティ施設への子育て支援施設の複合的な整備

地域コミュニティ形成と子育て支援等の機能を充実させるため、新たに設置する武川コミュニティ施設内に、放課後児童クラブ、児童館、地域子育て支援拠点事業の子育て支援機能を複合的に整備し、平成25年度より事業を実施する予定です。

この施設には放課後児童クラブ、児童館、地域子育て支援拠点事業の子育て支援機能のほか、図書館、ホール等といった地域コミュニティの中核となる機能を備えます。これにより集中的な子育て支援を行えるほか、子育てを地域全体で支援する体制づくりを行うことが期待されています。

また、放課後子ども教室（ほくとワクワク教室）とも連携を図り、地域の多様な方々の参画を得て、子どもたちと共に学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動や世代間交流等を行う取り組みを実施する計画です。

地域子育て支援拠点事業の運営

主に乳幼児（0～3歳児）を持つ親とその子どもが気軽に集い、交流を図るとともに育児相談等ができるよう地域子育て支援拠点事業を7か所（ひろば型4か所、センター型3か所）設置しています。

ひろば型では、お子さんと楽しく遊びながら、パパ・ママ同士のふれあいのひとときを大切に考えています。広いスペースとたくさんのおもちゃの中で、子どもとのスキンシップ遊びを楽しんでいただきながら、同時にパパ・ママ同士の子育て情報交換会、保育士・保健師のはなし、育児相談も行っています。

センター型では、育児交流を通して「一緒に考え、一緒に育て、一緒に助け、共感する」ための子育ての拠点づくりを目指しています。専門的な知識を持つ職員が子どもの成長・発達における相談に応じ、関係機関と連携をとりながら子育て支援に関するさまざまなサービスを提供しています。



放課後児童クラブ・児童館・放課後子ども教室の運営

労働、疾病などの理由で放課後や夏休みなどに保護者が家庭にいない小学校1年生から3年生までを対象とした放課後児童クラブ（13ヶ所）を設置し、集団生活や遊びを通して健全育成を図るとともに、保護者が安心して働くことのできる環境を提供しています。

また、市内には児童厚生施設として5か所の児童館を設置し、児童の健全育成に関する総合的活動の推進を図り、子どもの放課後の居場所を提供しています。

このほか、地域の方の参加により、子どもたちとスポーツ、文化活動や交流を行い、小学生の放課後の居場所確保を行うため、放課後子ども教室（ほくとワクワク教室）（7教室）を運営しています。放課後子ども教室と放課後児童クラブは放課後子どもプランに基づき相互の連携を推進しています。

小学生が放課後充実した時間を過ごせるよう、電話予約で走るデマンドバスを利用して、小学生が放課後に児童館や図書館などの公共施設に行く場合の利用料金を無料化する小学生交通サポート事業をモデル事業として実施しています。

ファミリー・サポート・センターの運営

市民相互の子育て支援を通じて、安心して子どもを生き育てる社会づくりを推進するため、ファミリー・サポート・センターを設置し、地域において育児の援助を行いたい者と育児の援助を受けたい者を組織化することにより育児を支援しています。

平成22年度より事業を開始しましたが、依頼会員、協力会員あわせ200人を超える登録会員があり、会員の交流、情報交換や子育て支援のための交流会の開催や、利用料金の補助制度を創設し、子育てパパ・ママを応援しています。

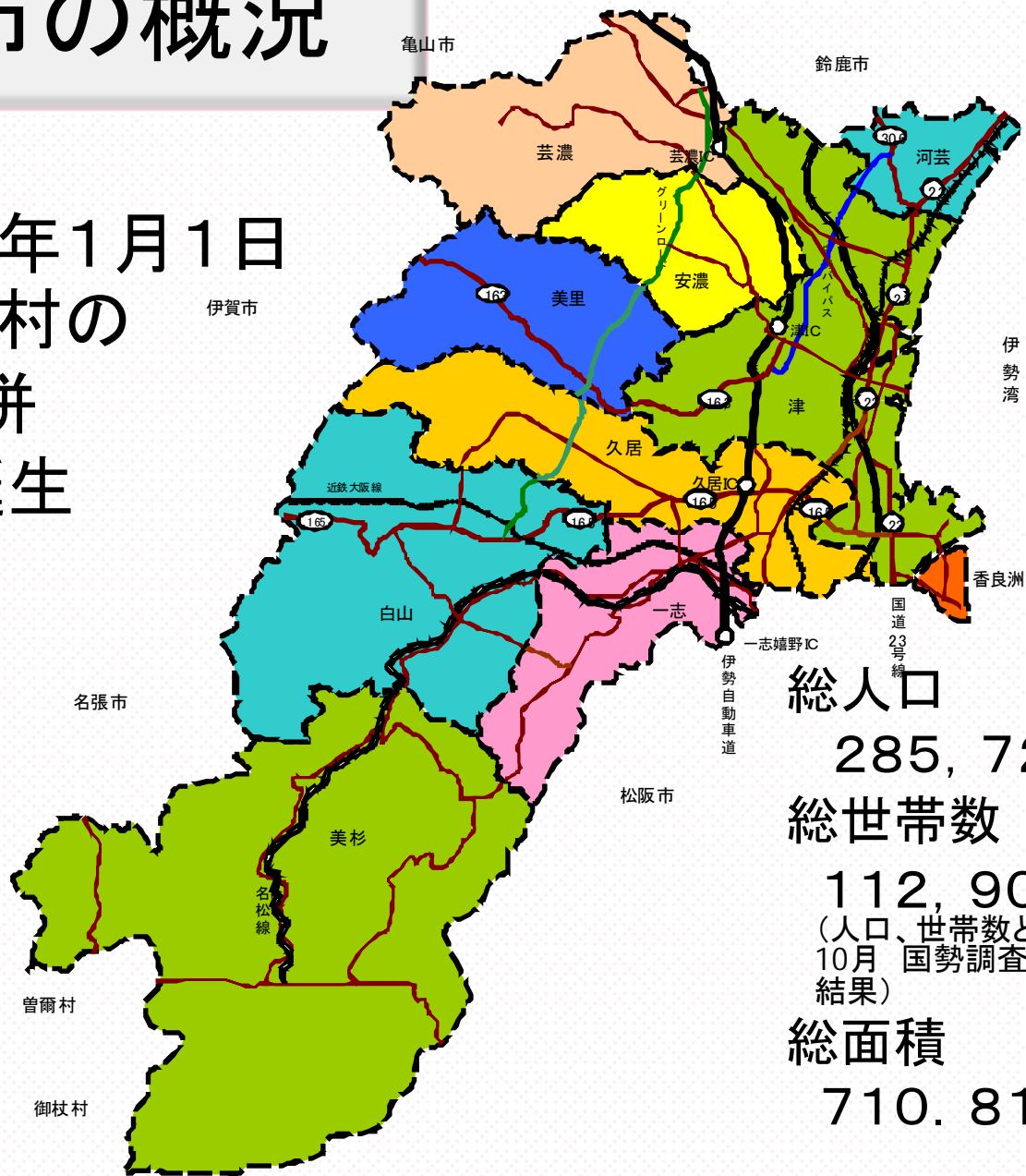
子育てイベント・子育て活動支援事業

地域における子育て力を育み、きめ細やかな子育て支援活動を応援するため、帝京短大で実施する県内唯一のプレーパーク（冒険遊び場）への支援等、地域の実情に応じた創意工夫のある子育て支援活動を行う民間団体へ補助を行っています。

三重県 津市

津市の概況

平成18年1月1日
10市町村の
対等合併
により誕生



総人口
285,728人
総世帯数

112,903世帯
(人口、世帯数ともに平成22年
10月 国勢調査抽出速報集計
結果)

総面積
710.81km²

平成24年度公私立幼保別園児数

H24.5.1現在(人)

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	3歳以上の合計	総合計	幼稚園数
市立幼				441	686	679	1,806	1,806	41
私立幼				583	584	562	1,729	1,729	10
国立幼				19	54	56	129	129	1
小計				1,043	1,324	1,297	3,664	3,664	保育所数
市立保	109	327	411	474	493	462	1,429	2,276	26
私立保	199	544	607	667	669	612	1,948	3,298	30
小計	308	871	1,018	1,141	1,162	1,074	3,377	5,574	
その他 (在宅児)	2,071	1,572	1,399	359	87	69	515	5,557	
合計	2,379	2,443	2,417	2,543	2,573	2,440	7,556	14,795	

津市の幼保一体化への取組

■津市の幼保一体化の取組(3施設)

合同カリキュラムを作成し、教育・保育を実施。行事等の合同保育。



一緒に稲刈りしたよ
白山乳幼児教育センター(白山)



合同運動会
浜っ子幼稚園(香良洲)



共同制作
高野保育園・高岡幼稚園(一志)

【成果】

- ・交流を重ね、互いを身近に感じるようになった
- ・小学校への連携がスムーズになった

【課題】

- ・保育や考えの違いを十分に話し合い、共通理解を図る
- ・課題を認識し、実態を把握して取り組む必要がある

オープンディスカッションの開催

5月27日に「津市が独自に進める幼稚園と保育園の一体化」をテーマとしたオープンディスカッションを開催しました。

今後もこのような場でどんどん議論をして、皆様のご意見を活かしていきたいと思っております。

保育所入所児童増加による待機児童の増加 幼稚園入園児童の減少、定員割れ

平成24年 (5月1日)	保育所	幼稚園
定員	5,380	6,580
入所児童数	5,577	3,535
入所率	103.7%	53.7%
施設数	56	51

津市独自の幼保一体化 に向けて

保育所、幼稚園といった枠組みに捉われず、オープンディスカッションなどをはじめ、津市の保育・教育について、保護者や関係者などの様々な立場の方の思いを聞きながらニーズに応えることが重要

～津市独自の幼保一体化に向けて～

オープンディスカッション

目的

津市では、保育所の入所率が、100%を超える一方、幼稚園の就園率は50%強という状況がある。現行の保育所・幼稚園という枠組みが、保護者のニーズと合致していない。津市には幼保の一体化施設があり、これらの事例を参考にしつつ、市民の生活スタイルに合致した保護者本位の津市独自の幼保一体化を進めていきたい。そこで、子育て中の保護者の代表や、子育て関係者等によるディスカッションを開催し、インターネットでの公開や意見募集を行い様々な立場からみんなと一緒に考えていく。

第1回オープンディスカッション

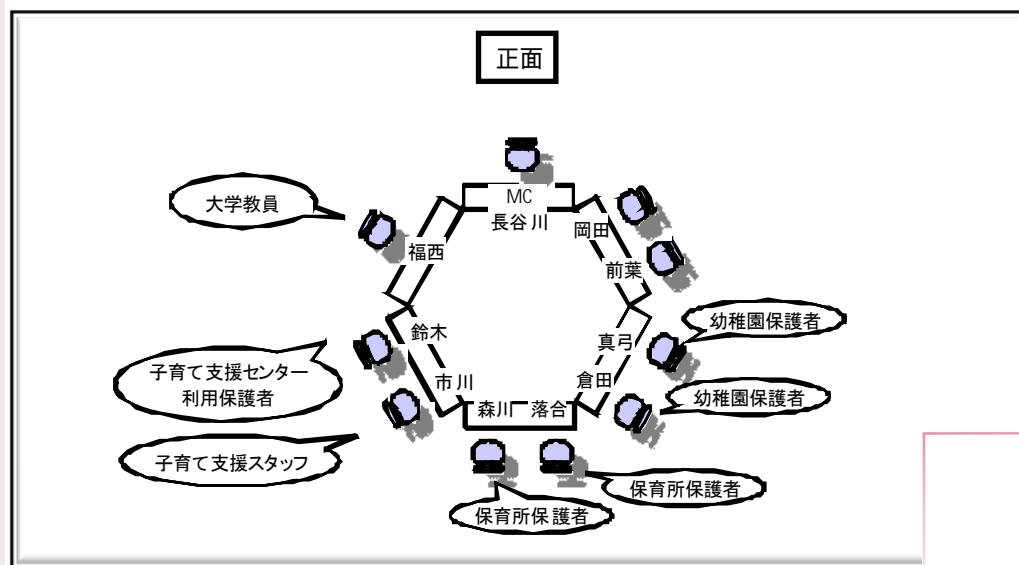
日時 平成24年5月27日(日)14時30分～16時30分

場所 津市役所8階 大会議室にて

ディスカッションメンバー



岡田克也副総理
前葉泰幸市長
幼稚園保護者2名
保育所保護者2名
子育て支援センター
利用保護者
子育て支援スタッフ
大学教員 の9名



参観者数 131人

ディスカッションテーマ
私たちが望む乳幼児の保育・教育とは？



前葉市長挨拶：津市としてどのような姿をめざすのか、保護者の思いも入れた幼保一体化にしていきたい。

前半：国の考える子ども子育て新制度、幼児期の学校教育・保育の総合的な提供について説明・質疑



- ・将来の人口構成は、働く世代のほぼ1人が、1人の65歳以上を支える時代となる
- ・日本の子ども子育てに関する経費は、ヨーロッパ諸国に比べると少ない
- ・めざすのは、子どもを産み子育てしやすい社会の実現
- ・待機児童の解消、質の高い幼児期の学校教育・保育の提供、それには幼稚園保育所のよいところを取って、一本化していく
- ・放課後児童クラブの設置を今の22%から40%に
- ・保育の形を多様化していく、幼稚園保育所の手続き、財政措置を一本化

後半：津市の幼保一体化施設の現状から今後へ

- 白山乳幼児教育センター、香良洲浜っ子幼稚園、高岡幼稚園・高野保育所では自然な形で幼稚園保育所の子どもたちが交流・合同保育を行っている
- 合同保育カリキュラムを組み、幼稚園・保育所が連携し、教育・保育を行うことにより良い環境ができている
- これらを制度として全市に広げていくのが今後の課題



第1回オープンディスカッション 主な意見

- 保育の質が低下するのでは？
- 市の責任が少なくなるのでは？
- 子育てと働くことの両立
- 病児・病後児保育の充実
- 企業への子育て家庭支援への働きかけ（休みが取りやすい、勤務時間等）
- 保育士の待遇改善
- 教育・保育の質の確保
- 子ども中心とし、現場の声を聞きながら
幼保一体化を進めてほしい
- 子育て支援の充実と情報発信をし、子育てを楽しみたいと思えるような街づくりを！



第2回 オープンディスカッション

私たちがめざす乳幼児の保育・教育とは？

日時 平成24年8月19日(日)10時30分～12時00分

場所 津市役所8階 大会議室にて

ディスカッションメンバー



前葉泰幸市長

三重県健康福祉部子育て支援課長

公私立幼稚園関係者2名

公私立保育所関係者2名

企業関係者 2名

大学教員 の9名

参観者数 80人

第2回オープンディスカッション 主な意見

- 教育の質を保障するためには適正規模での教育が必要
- 病児・病後児保育を充実させ働きやすい環境の整備を
- 社会全体で子育て家庭への就労支援を
- 子育て放棄につながらない子育て支援を
- 教育・保育の質の確保のための津市独自の人的配置の基準を
- 子どもを中心にすえた改革を
- 津市版の子ども・子育て会議の設置を
- 就労支援に偏るのではなく子育て支援と両輪でバランス良く支援する
- 就学前人口や地域を考えて施設の設置や配置をしてほしい
- 民間が得意とするところ、公立が担うところの役割分担を
- 子育てしやすい街づくりを

オープンディスカッション まとめ

津市独自の幼保一体化に向けて

- 幼児期の学校教育・保育、地域の子ども・子育て支援を総合的に推進する新たな仕組みに対応した取組を進める
 - ・ 幼児期の子どもたちにどんな力をつけ、どう義務教育につなげていくかをしっかり検討していく
 - ・ 子育て世帯のニーズや今後の就学前児童数の推移を的確に把握し、子どもたちの健やかな育ちのためにどんな環境を整備していくのか検討し保護者や関係機関と協議していく
 - ・ 現行3施設で実施している幼保一体化の取組みを広めるとともに、公私立の役割分担を考え、認定子ども園の設置も視野に入れ、検討していく
 - ・ 保護者への子育て支援、就労支援をすすめ、子育てしやすい街をめざす